

山形県川西町

K-866

田 制 館 跡 発掘調査報告書

1998

川西町教育委員会



田舎館空中写真

序

「緑と愛と丘のあるまち」川西町は、山形県の南部に位置し南に吾妻山、西に飯豊山、東はるかに蔵王山をのぞみ、四季おりおりの美しい自然と豊かな水田が広がる置賜盆地の中心に位置し、人口は2万人余りでのどかな田園風景の広がる町です。

町では、県指定史跡の天神森古墳・下小松古墳群・道伝遺跡などを有し、特に下小松古墳群のある下小松山には自生する高山植物群など貴重動植物の宝庫でもあります。これら保護を十分考えながら、史跡を中心とした保護及び活用をすすめているところです。

この報告書は公立置賜総合病院建設に係る埋蔵文化財緊急発掘調査の結果をまとめたものです。

調査は工事日程、田制氏の移転期日、人員の確保など調整し50日間にわたって行いました。この調査により年代の異なる生活の痕跡とたくさんの生活用具が出土しました。これらの埋蔵文化財は、川西町の歴史や文化を知る重要な資料であり、保護、保存をして行くことは、私達の責務であります。また、本町教育委員会におきましては、これらの遺跡など多くの文化財を保護保存に努力していく所存です。本書が文化財保護のご理解の一助になれば幸いと存じます。

最後に、田制館の調査に参加協力いただきました置賜広域病院組合・(財)南陽市シルバー人材センター・(財)東南置賜シルバー人材センター・長井市教育委員会・及び関係機関の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成10年2月20日

川西町教育委員会

教育長 高 橋 勉

例　　言

- 1 本書は公立置賜総合病院建設工事に係る「田制館跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査は置賜広域病院組合の委託により、川西町が実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

- 調査主体 川西町教育委員会
- 遺跡名 田制館跡 (T S T) 遺跡番号 平成 6 年度登録
- 所在地 山形県東置賜郡川西町大字西大塚字堂前 5
- 調査期間 発掘調査 平成 9 年 9 月 1 日～平成 9 年 10 月 31 日
報告書作成 平成 9 年 11 月 1 日～平成 10 年 3 月 10 日
- 4 調査総括 高橋 勉 (川西町教育委員会 教育長)
 - 調査主任 藤田宥宣 (文化遺跡係長)
 - 調査員 斎藤敏明 (文化財専門員)
 - 事務局 佐藤 肇 (社会教育課長)
富塚孝雄 (社会教育課長補佐)
 - 調査協力 長井市教育委員会・南陽市教育委員会
川西町文化財保護協会
 - 5 発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県教育庁文化財課・南陽市教育委員会吉野一郎氏、長井市教育委員会岩崎義信氏の協力を得、また、報告書作成に当たっては平田禎文氏、水野哲氏、月山隆弘氏の各氏からご指導を賜り、記して感謝申し上げます。
 - 6 本書の作成・執筆は藤田宥宣、斎藤敏明の両名があたり、遺物整理・遺物観察表・写真・図版等は斎藤、執筆は藤田が担当した。
 - 7 委託業務は下記のとおりである。
遺構の写真実測 株式会社バスコ
遺物保存処理 株式会社京都科学
 - 8 出土遺物、調査記録書類等は川西町埋蔵文化財資料展示館に一括保管している。

目 次

I 調査の経緯	9
1 調査に至る経過	9
2 調査の経過	9
II 遺跡の立地と環境	13
III 遺構と遺物	16
1 遺構	16
建物跡	16
溝跡	17
2 遺物	27
陶磁器	27
木製品	27
古銭	27
IVまとめ	44

表

表-1 遺物観察表	28
-----------------	----

挿 図

第1図 周辺の遺跡	11
第2図 調査区概要図(グリッド配図)	12
第3図 遺構平面図	14
第4図 遺構平面図	15
第5図 SD 01 胸出土状況	17

第6図 遺構全体図	19
第7図 遺構断面図	21
第8図 遺構断面図	22
第9図 遺構断面図	23
第10図 遺構断面図と平面図	24
第11図 遺構断面図	25
第12図 遺物実測図①	31
第13図 遺物実測図②	32
第14図 遺物実測図③	33
第15図 遺物実測図④	34
第16図 遺物実測図⑤	35
第17図 遺物実測図⑥	36
第18図 遺物実測図⑦	37
第19図 遺物実測図⑧	38
第20図 遺物実測図⑨	39
第21図 遺物実測図⑩	40
第22図 遺物実測図⑪	41
第23図 遺物実測図⑫	42
第24図 遺物実測図⑬	43

図 版

図版1 航空写真	
図版2 調査区空中写真	
図版3	
図版4	
図版5 出土遺物①	
図版6 出土遺物②	
図版7 出土遺物③	

図版8 出土遺物④

図版9 出土遺物⑤

図版10 出土遺物⑥

図版11 出土遺物⑦

図版12 出土遺物⑧

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

田制館は、1971年発刊された大塚村史によると、天正年間に6000m²の屋敷をつくり居住した。地域住民は、通称『田制屋敷』と呼んでいる。1995年発刊の山形県中世城館遺跡調査報告書に館の規模が東西60m、南北30~60mの中世から近世の田制館と報告している。

田制氏の言い伝えによると元伊達家の家臣で、川西町大字大塚字林崎より移転したとのことである。この林崎には東西南北300mあまりの館跡があり、伊達家の家臣の居住であった。^(註1)現在、その館の中央部に常光院が造られている。この寺は長享年間(1489年頃)の創立であるといい、この寺の開基檀主に田制家がある。これらより田制家はこの地域を代表する家柄と見ることができよう。天正初期の伊達氏着到帳の中で、栗野文六郎の家臣の馬上氏名の中に「たせい七郎左衛門・たせい蔵人」名が書かれている。多勢なかの田制なのか明確ではないが、馬上を許可された家柄を見ることができる。この地域周辺に居住していたことを読み取ることができるようである。

田制館跡を含むこの地一帯に公立置賜総合病院の建設が計画され、1997年6月16日に県教育庁文化財課が工事予定地を観定して、遺跡分布調査を実施した。そのおり、置賜広域病院組合と川西町教育委員会及び川西町用地課が立ち会い試掘を実施した。試掘調査において4本のトレンチを設定し発掘した結果、館を区画すると考えられる堀跡が検出された。この調査内容を基に、県教育委員会・置賜広域病院組合・川西町の関係機関が遺跡保存の協議を行い、館跡を記録保存することになった。そこで、川西町が置賜広域病院組合から遺跡調査の委託を受けた。1997年8月1日付けで委託契約を取り交わし、田制館跡の発掘調査を実施したものである。

2 調査の経過

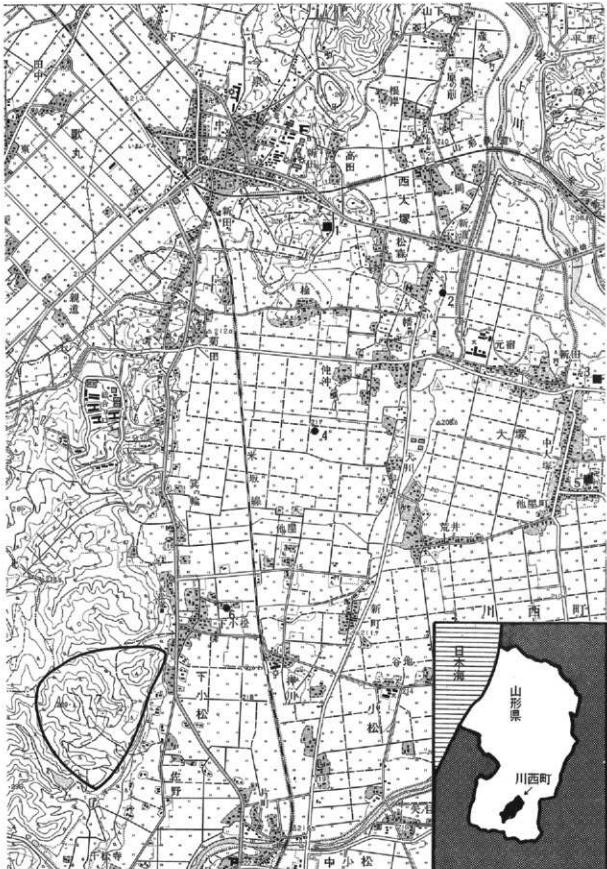
田制館の調査は館全域が公立置賜総合病院の予定地内に入るため、館跡の全体を調査するものとした。しかし、館跡周辺は工事が先行しているために、発掘調査は、館と推定し

た掘跡の内側のみの調査である。

発掘調査は、1997年9月1日から同年10月31日の2カ月間、約4,000m²の発掘を受託したことから、9月4日より重機を借り上げ、建築廃材や基礎コンクリートの廃棄物を調査区の外に搬出し、重機にて表土剥離を行った。西側の丘陵より続く緩やかな傾斜地の調査区のことから調査区西側の標高の高いところから低い順に調査を行った。また、雨水や湧水を考え館掘の掘り下げを先行しながら調査を進めた。ほぼ、面整理を終了した。

10月3日に基準杭を打ち、その後、遺跡全体に10m×10mのグリッドを設定した。順次、面整理を手掘りで行い遺構遺物の検出を進めて行った。それと平行して写真撮影や平面図作成及び土層断面の実測等の記録作業を行った。調査区域全体の平面図作成は空中撮影とし、委託した。10月30日調査説明会を現地で開催し概況を報告した。11月5日まで記録作業を行い、現場を撤収し、調査を終了した。

整理作業は、現地調査終了後、遺物の洗浄及びネーミングを行い、報告書作成に伴う作業を1998年3月までおこない、遺物の復元や保存処理など一部の作業を残して終了することができた。



第1図 周辺の遺跡 (S = 1/25,000)

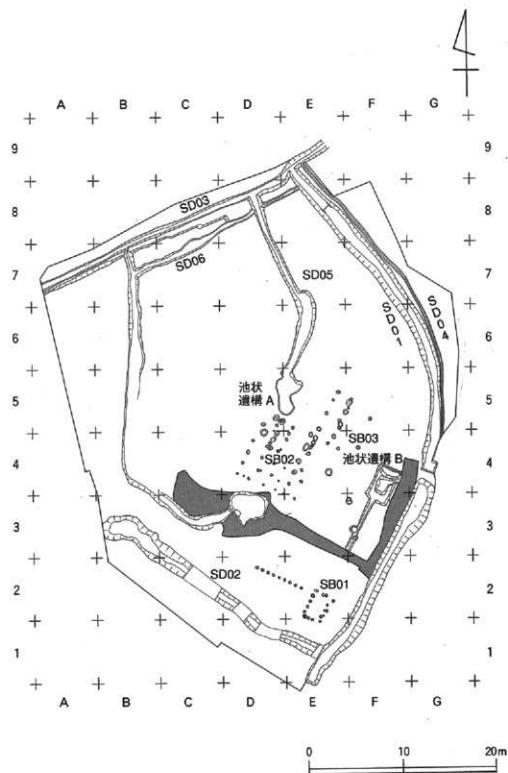
1. 田制館
2. 大林遺跡
3. 大塚城
4. 蔵藏北遺跡
5. 林崎館
6. 蓮伝遺跡
7. 下小松古墳群

II 遺跡の立地と環境

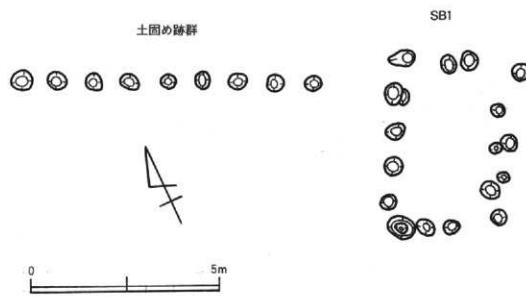
田制館の所在する川西町は山形県の南部のほぼ中央、米沢盆地の西側に位置している。盆地の中央を最上川（松川）が流れ、その西側の最上川の支流となる犬川、黒川等によつて形成された肥沃な水田地帯が広るところである。

田制館は川西町の北部に位置し、東側約1kmには最上川が北に流れている。西側約1kmにはJR今泉駅がある。また、館の北側50mには国道113号線が東西に走っていて、米沢盆地の西部の玉庭丘陵が北に伸びて形成する眺山丘陵の北進した先端部分にあたり、標高213m前後の緩やかな斜面に造られている。

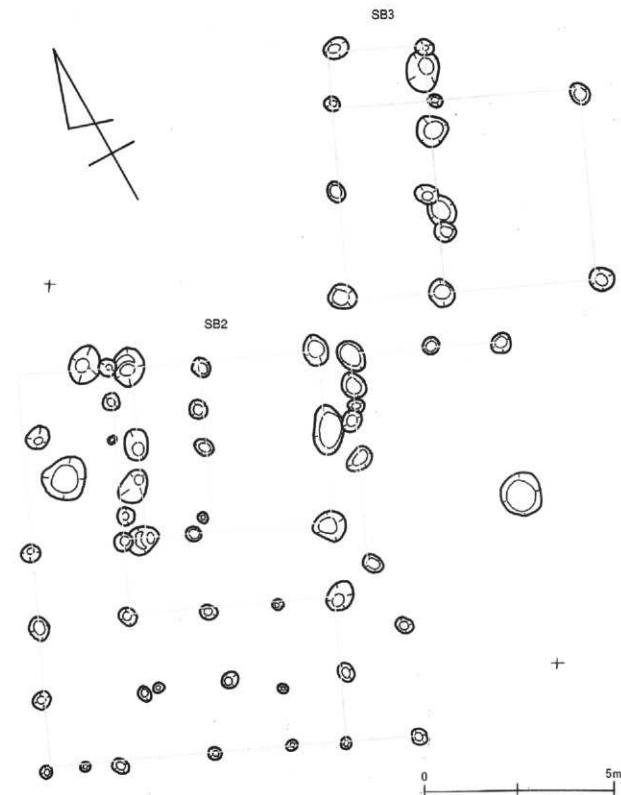
館の周辺には史跡も多く、中でも南側1.5kmには龍藏北遺跡、2.5kmには平安期の官衙跡である道伝遺跡があり、その遺跡の西側には下小松古墳群が造られている。また、南東方向2kmには大塚城や林崎館がある。田制館の東側は水田地帯であり、その一段高いところに館が造られ、その西側は小高い丘陵で畑として利用され、ぶどうなど果樹の栽培をしていたところである。



第2図 調査区概要図（グリッド配図）



第3図 遺構平面図 ($S = 1/100$)



第4図 遺構平面図

III 遺構と遺物

1 遺構 (第2~11図 図版2~4)

今回の調査では、館構築以前の（須恵器壺片一点のみであり）遺構は確認されない。館に関連すると思われるものは掘立柱建物跡3棟、礎石に伴う近代の建物跡2棟 溝跡5条 池状遺構2基等数多くの遺構が確認された。検出された遺構の大部分のものは現代の遺構であり、遺構作成年代を明治以前のものと限定した。

建物跡 (第3~4図 図版2)

S B 01は2-Fグリットで検出されたもので、南北桁行3間約5m、梁行2間約3mの建物跡で、掘り方は楕円形の直径25cm深さ30cmである。同じところに同じ規模で若干(50cmずれたかたちで)立て替えたようにも観察されたが確証は得られなかった。掘り方から遺物柱根などは確認されない。西側の南北柱列の掘り方は、真北より東に60度の傾きである。

S B 02は4~5-D Eグリットで検出された。館堀に囲まれたほぼ中心的な場所にある建物跡で東西5間約8mで西側南隅の掘り方から柱の間隔は1m+1m+2.5m+2m+1.5mである。南北5間約10mで東側南隅の掘り方から柱の間隔は2m+2m+2m+2m+2mとなっており、建物はほぼ正方形に近いものである。この建物の中に大小の堀り方が確認され、小さな建物が重なっている可能性もある。掘り方の大きさは直径約30cmの円形で深さ25~35cmあり、中には60cm~1mの楕円形のものもあるが、遺物は検出されない。南北の柱列の掘り方は、真北より東に60度の傾きを示す。

S B 03は4~5-E Fグリットで検出された。S B 2の北東部に接する建物跡で東西1間、南北3間の大きさである。南北に造られた柱筋がS B 2・S B 3ともほぼ同じ傾きから同一の建物の可能性もある。

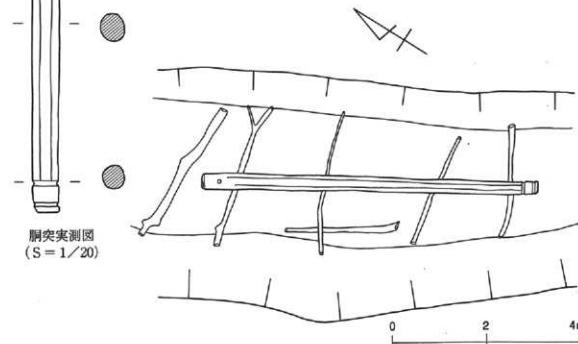
土固め跡群は2-D Eグリットで確認された。楕円形で大きさ40~50cm深さ5~20cmと浅い凹レンズ状をしており中央部に破碎された礎が入っている。1間96cmで均等に8間あり一列に長さ7.7m続くものである。この列は真北から東に120度の傾きを示す。これ

は建物の礎石を添える前に行う土固めの痕跡と判断している。また、この列がほぼ中央を切る形で方形の形になる等間隔の3間の土固めも確認できたが深いものであった。(図版2)

溝跡 (第5~11図 図版2~4)

面整理において20条余りの溝跡を検出できたが、現代に造られたものが多く、今回の調査で遺跡は明治以前と確認したものは次の6条である。

S D O 1は館の東側を取り囲む溝で4~9-E~Gグリットで検出された溝跡である。1~3-E~Gグリットで現存し利用されていた溝と同規模のものである。この溝の幅は2.5m~3.2mで深さ50cm~70cm、長さ55mである。覆土は4層に分けられ、溝底部より30cmあまりは自然堆積層でその上部2層の覆土は一気に埋めどされたことが確認される。この溝跡の南側の部分は30cmと



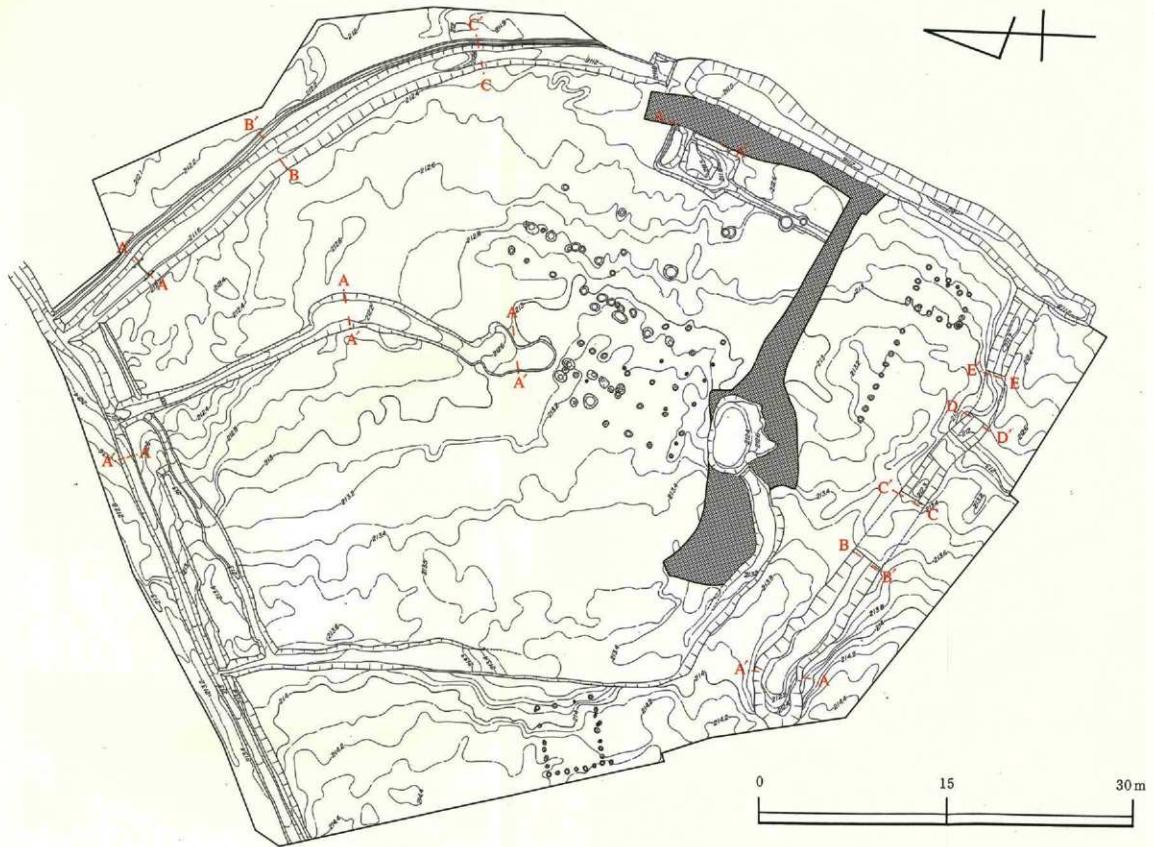
第5図 S D 01 洞突出土状況 (S = 1/40)

浅くなってしまっており自然堆積層もなく一気に埋め戻されている。この部分より片口土器(No.4)の検出から、溝が造られてから北側とは別に早めに埋めもどされたものと確認された。7-Fグリットの部分の溝底部より胸突(地固棒)が4本の細い丸木(直径7~15cm長さ1m)に乗せられた形で検出された。また、直径30cm長さ2mの丸太が溝を横断する形で4カ所におかれ、溝底より20cmあまり浮いた状況で設置していた。溝北側には溝の水を堰止める施設があり、杭を打ち込み板材を盾にあてがい水を堰止したものであった。この溝からの遺物は少ないが、摺鉢片や碗など掲載したものは5点である。この溝跡は昭和30年代に埋め戻されたものである。

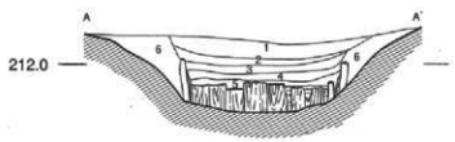
S D 02は館の取り囲む溝の南側に位置する。1~3-B~Eグリットにかけて確認された溝跡である。溝の大きさ幅2~4m、深さ0.8~2.4m長さ39mである。溝の東側では調査前まで利用されていた溝に合流することが確認された。この溝跡には直径80cmあまりの杉や栗等の木が植林され、年輪を見ると125年を数えることができた。このことにより溝跡は125年前(明治6年)には堀の中央部西側から東側の調査以前まで現存した溝のところまで、埋め戻しを行っていたことが確認できた。溝の西側の部分は井戸として利用していたとのことであり、溝の造構プラン確認の折り、幅4m長さ8mあまりが他の所と違うことがわかった。井戸として再利用していたことも遺物から確認された。この井戸のところは、覆土の状況や出土遺物から昭和初期に埋めもどされたものと思われ、掲載した遺物は27点である。

S D 03は館の北側7~8-A~Dグリットで確認された溝跡で幅1m深さ40cm長さ43m以上の西から東へ傾斜するところに造られた溝跡である。発掘以前より水田の用水路のあったところで、元の掘り跡が埋まり、その場所をまた用水路として溝幅を狭めて利用されていたものであった。掲載した遺物は30点である。

S D 04はS D 1の東側に造られた5~8-E~Gグリットにて確認した布堀跡で、幅50~60cm深さ60cm長さ51m以上確認される溝である。S D 1に平行して造られていることからS D 1とはほぼ同時期のものであろう。覆土は3層に分けることができ、遺物は確認されない。この溝は人為的に埋めもどされたものと考えている。

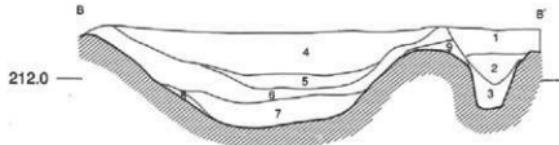


第6図 造構全体図 ($S = 1/300$)



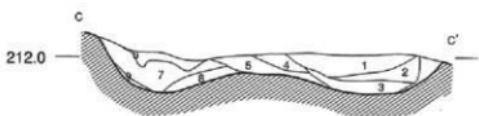
SD 01 A-A' 間 断面

- 1 (人馬の埋め戻しによる層)
- 2 緑褐色土 粘質
- 3 緑褐色土 粘質 有機物を多く含む
- 4 緑褐色土 粘質 有機物を非常に多く含む
- 5 緑褐色土 粘質
- 6 地灰色土 粘質 木材設置時の堆土



SD 01 B-B' 間 断面

- | | |
|------------------|-----------|
| 1 緑褐色土 黄褐色土少量含む | 6 黒褐色土 |
| 2 黄褐色土 | 7 地灰色土 粘質 |
| 3 黑褐色土 黑褐色土多く含む | 8 灰色土 |
| 4 黄褐色土 黄褐色土と少量含む | 9 黑褐色土 塚山 |
| 5 黄褐色土 黄褐色土と少量含む | |

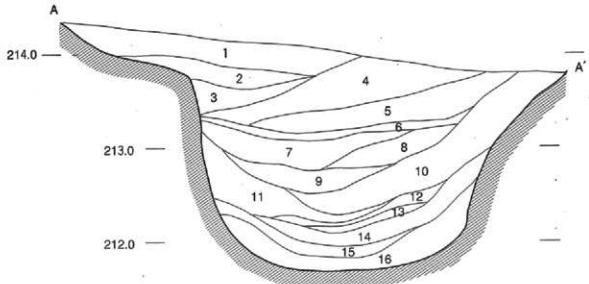


SD 01 C-C' 間 断面

- | | |
|------------------------|--------|
| 1 緑褐色土 黄褐色土ブロックをやや多く含む | 6 緑褐色土 |
| 2 緑褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む | 7 黒褐色土 |
| 3 緑褐色土 粘質 | 8 緑褐色土 |
| 4 黄褐色土 | 9 緑褐色土 |
| 5 地灰色土 | |

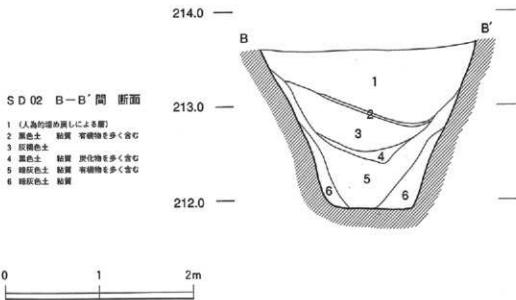


第7図 遺構断面図① (S = 1/40)

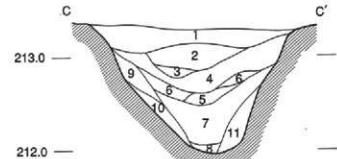


SD 02 A-A' 間 断面

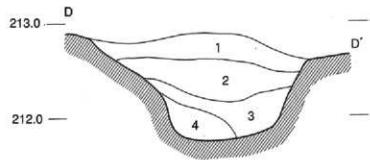
- 1～3 (人為的埋め戻しによる層)
- 4～9 (原生の人の入出の埋め戻しによる層)
- 9 明瞭な土 黄褐色土を多く含む
- 10 明瞭な土 黄褐色土
- 11 黄褐色土
- 12 寒暖色土
- 13 墓段色土
- 14 灰色土
- 15 緑灰土
- 16 灰色土



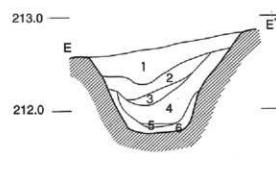
第8図 造構断面図② (S = 1/40)



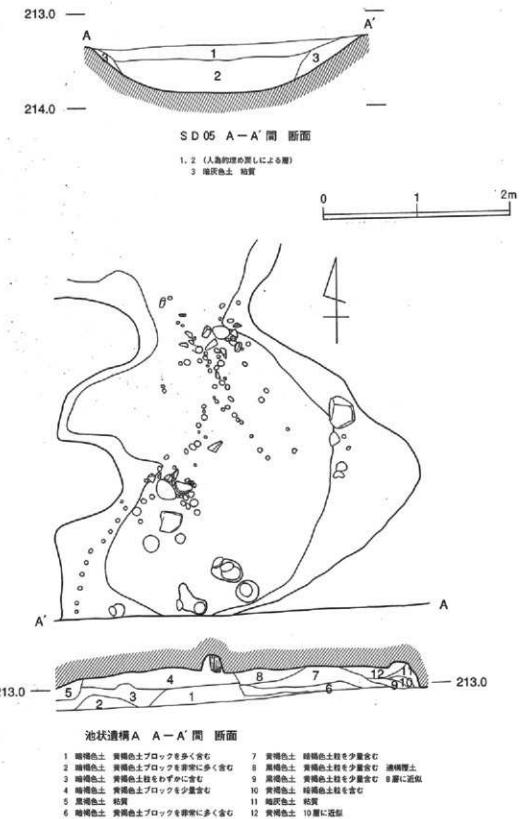
- 1～6 (人為的埋め戻しによる層)
- 7 黒色土 細質 有機物を多く含む
- 8 黒色土 細質
- 9 灰褐色土 細質
- 10 灰褐色土 細質
- 11 黄褐色土 細質



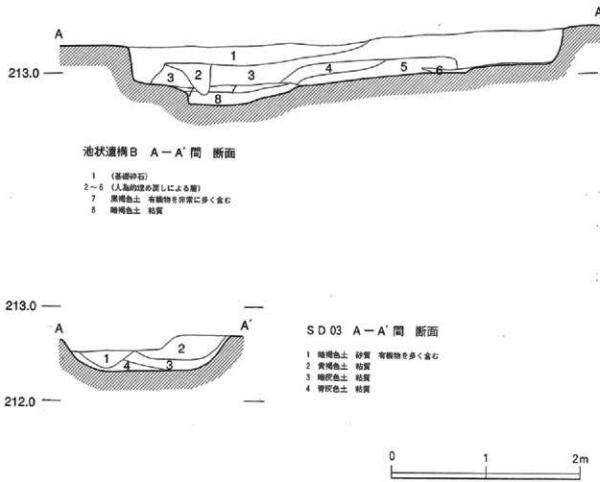
- 1 黒色土 細質
- 2 黒色土 細質 明瞭褐色土ブロックを含む
- 3 黒色土 紆質 有機物を含む
- 4 緑褐色土 紆質



第9図 造構断面図③ (S = 1/40)



第10図 遺構断面図と平面図④ (S = 1/40)



第11図 遺構断面図⑤ (S = 1/40)

SD 05は6~8-Eグリットで確認された長さ30mの溝跡である。水は池状遺構Aより流れ込む形で北流し、SD 03に入る。溝の長さの南側約13mは大きく造られ幅1.5~3m深さ50cmであり、北側17mは幅が狭く1m~1.2m深さ50cmである。覆土は2層に分けられ、人為的に埋め戻されている。出土した遺物は少なく、掲載した遺物は2点である。

SD 06は7~8-B~Eグリットより確認された溝跡でSD 03と平行した形で造られている。調査前に現存した館の西側を南北に走る溝と西側で結合し、その溝から湧水した水をSD 01に流していたものである。溝幅は部分的に異なるが0.7~2mで、深さ20~40cmであり覆土より人為的に埋められたものである。溝のある7-Cグリット西側より多量の陶磁器が廃棄されたかたちで検出された。その中で掲載した遺物は19点である。

池状遺構Aは5-Eで確認された凹レンズ状に造られた池状のもので、館のほぼ中央より北にむかって進む溝跡である。5-Eグリットの溝の底の部分には平たい直径30cmあまりの石が2個、こぶし大の河原石が散らかしたように敷かれていた。また、所々には柱根状（直径10~20cmの丸太）のものが設置されていた。溝中央部付近に杭が乱打され、約10~20cm間隔に打ち込まれていた。（第10図 図版4）中でも大きな石近くから寛永通寶が6枚検出された。この溝の覆土は人為的に一拳に埋めもどされたものであり、陶磁器片等は検出されない。

池状遺構Bは3~4-Fグリットで確認された池状跡で、館の東側にあるSD 01と南側にある現存した溝のほぼ中央の所に造られていた。大きさが東西4m×南北5m深さ0.7~1mの方形のもので、その北隅の角より北側に幅30cm深さ20cmのL字状に掘られている。東側は未調査地区であるが土層断面東側の現存した溝に水が流れ込む形である。

2 遺 物

今回の調査で出土した遺物は、整理箱にして約15箱分で、館に直接関連する時代のものは3点である。時代区分で見ると奈良平安期の須恵器甕片1点、その他、すべて近世より現代のものである。特に陶磁器の産地を見ると中国の磁器3点含まれており、木製品として胴突（地固棒）を検出することができた。しかし、遺物包含層の大部分は搅乱されており、その搅乱層からの出土である。そのほかは溝内からの検出である。

陶 磁 器

磁器は器種として碗・皿・角皿・蓋物鉢・徳利・猪口・碗蓋などが検出された。中でも肥前産の“くらわんか茶碗”が検出され、網目文や草花文など多種のものである。出土遺物観察表1~3とのおりで、17世紀末から18世紀以降のものである。

陶器は器種として摺鉢・風炉・切立・鉢・花生・徳利・猪口・火鉢・香炉・壺・蓋・碗・皿などが検出された。86は戸長里焼の蓋で、川西町で初めての出土である。この戸長里焼は16世紀末から17世紀初頭に焼かれたものである。また、100は中国景德鎮の潭窯のもので17世紀初頭に焼かれたものである。^(註3)

木 製 品

木製品として蓋や鍵状木製品や胴突が溝跡より出土した。

胴突はSD 01より検出したもので長さ3.58m直径が14~18cmある。全体的に根元（土に接する部分）空先端にかけて細くなり、面は粗く6角に削られている。根元の端部は地面と接する所は縫を嵌めたものと見られ2cmあまり細くなっている。縫の部分から17cmのところに3cm角の穴が掘れ中に角材が入れてあり、その穴は四方に造られている。胴突の時の舵棒の痕跡であろう。細くなる先端部分には2重に幅2.5cm深さ2cmのくびれがあり、杉材の丸太を用いている。そのほか、鍵・櫛・蓋などが確認された。

古 錢

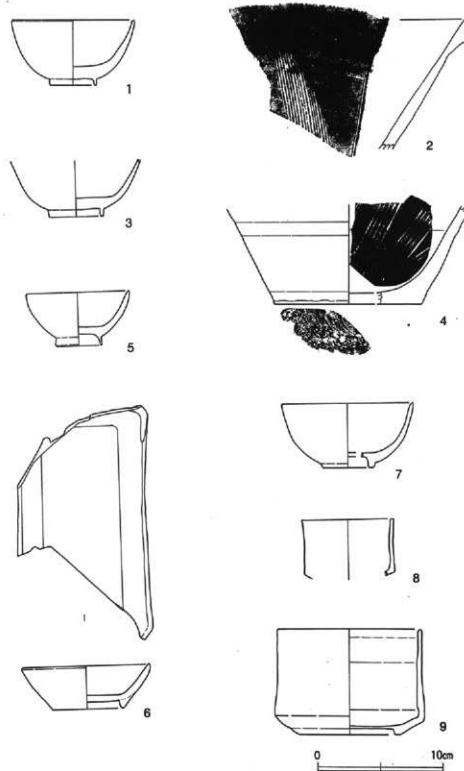
寛永通寶が6枚確認された。背に文字は確認されないもので新寛永である。No.93は、この6枚と一緒に1枚出土し、材質は真鍮の無文で、錢として利用されたものと考えている。

遺物觀察表

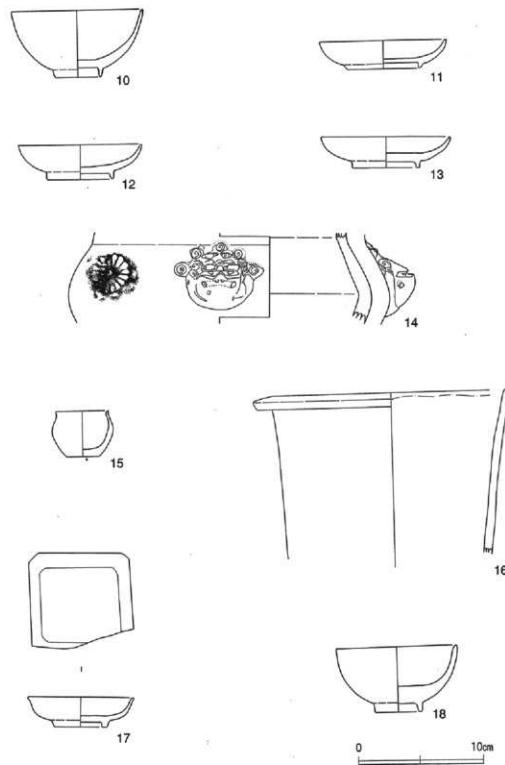
No	出土地	器種	素材	法量(cm)				備考
				口縫径	器高	底径	最大径	
1	SD01-2	碗	磁器	(10.0)	5.2	3.8		肥前系
2	SD01-3	摺鉢	陶器					
3	SD01-4	碗	磁器		4.4			肥前系
4	SD01-4	摺鉢	陶器					
5	SD02-1	碗	磁器	8.4	4.3	3.8		
6	SD02-1	角皿	磁器	幅10.4	3.6			肥前系
7	SD02-2	碗	磁器	10.6	5.2	4.0		
8	SD02-2	碗	磁器	7.4				伊万里系
9	SD02-2	薬物鉢	磁器	11.6	8.5	8.0	12.0	伊万里系
10	SD02-2	碗	磁器	(10.6)	5.4	3.8		
11	SD02-2	皿	磁器	10.2	2.3	5.6		
12	SD02-2	皿	磁器	(10.0)	2.8	(5.4)		肥前系
13	SD02-2	皿	磁器	(10.4)	2.5	(5.4)		肥前系
14	SD02-2	風炉	陶器			24.4		
15	SD02-2	小蓋	陶器	(4.2)	3.7	2.6	(5.0)	
16	SD02-2	切立	陶器	(22.2)				
17	SD02-2	皿	磁器	8.4	2.4			
18	SD02-2	碗	磁器	(9.8)	5.3	3.8		肥前系
19	SD02-2	切立	陶器	(15.6)	18.3	12.6	(16.0)	会津本郷焼?
20	SD02-2	德利	磁器			3.4	4.8	
21	SD02-2	鉢	陶器	(33.0)	16.4	12.0		
22	SD02-2	切立	陶器			19.8		
23	SD02-2	片口鉢	陶器	(21.0)				
24	SD02-2	鉢	陶器			8.6		
25	SD02-2	摺鉢	陶器					
26	SD02-2	摺鉢	陶器					
27	SD02-2	銀木	木	残長13.0	厚1.9	幅7.4		
28	SD02-2	櫛木	木	残幅10.4	厚0.7			
29	SD02-3	碗	磁器	7.4	3.9	2.8		
30	SD02-3	花生	陶器	8.0		7.5		底部に墨書「在○」
31	SD02-3	切立	陶器	(20.8)				
32	SD02-3	德利	陶器	3.6	21.5	7.8	14.0	
33	SD02-4	摺鉢	陶器	34.0				
34	SD03	碗	磁器	(11.0)				
35	SD03	碗	磁器	(10.4)	5.0	(4.4)		肥前系
36	SD03	碗	磁器	(10.2)	5.0	(4.2)		
37	SD03	皿	磁石手	(13.2)	3.0	(5.4)		会津本郷焼
38	SD03	猪口	磁器	(6.2)	4.3	(3.6)		肥前系
39	SD03	碗	磁器		5.2			肥前系
40	SD03	碗	磁器	(7.0)				
41	SD03	鉢	陶器	(16.6)				
42	SD03	鍋	陶器	(18.0)	(9.2)	(7.1)		
43	SD03	皿	磁器	14.0	3.3	8.0		
44	SD03	碗	磁器	(9.4)				
45	SD03	碗	磁器	(9.7)	4.9	4.4		肥前系

No	出土地	器種	素材	法量(cm)				備考
				口縫径	器高	底径	最大径	
46	SD03	鉢	陶器				8.0	
47	SD03	花立	陶器		13.0			
48	SD03	鉢	陶器				8.4	
49	SD03	猪口	磁器		6.2	3.0	2.4	
50	SD03	猪口	陶器				3.8	相馬焼
51	SD03	皿	磁石手		12.8			会津本郷焼
52	SD03	德利	陶器				5.3	底部糞痕
53	SD03	皿	陶器		(11.6)	2.7	(5.2)	
54	SD03	皿	陶器		12.6	3.8	5.6	
55	SD03	碗	磁器		4.0	2.8	10.4	
56	SD03	火鉢	陶器			4.1	(9.0)	
57	SD03	皿	陶器				(6.2)	
58	SD03	切立	陶器			16.2	16.2	成島焼 大正以降
59	SD03	切立	陶器			5.6	14.4	成島焼 大正以降
60	SD03	鉢	陶器			4.4	5.1	肥前 京焼風陶器
61	SD03	碗	陶器				3.6	
62	SD03	摺鉢	陶器					
63	SD05-2	皿	磁器		(12.8)	2.4		
64	SD05-2	蓋	木		14.5	0.5		
65	SD06	碗	磁器		(11.4)	5.9	(5.4)	
66	SD06	皿	磁器		(9.2)	2.5	(3.4)	
67	SD06	碗	磁器		(10.6)	5.2	3.6	
68	SD06	碗	磁器		(6.8)	5.4	(2.6)	肥前系
69	SD06	香炉	陶器		(11.4)	6.8	(5.4)	
70	SD06	碗	磁器		(7.2)	5.3	3.2	
71	SD06	碗	磁器		(9.6)	5.0	(3.2)	肥前系
72	SD06	花生	陶器			6.2	7.2	
73	SD06	蓋	磁器		5.4	1.1	5.8	
74	SD06	碗	磁器		(11.4)	5.0	4.2	
75	SD06	鉢	陶器				7.8	
76	SD06	德利	陶器				10.8	
77	SD06	摺鉢	陶器					
78	SD06	摺鉢	陶器					
79	SD06	摺鉢	陶器					
80	SD06	摺鉢	陶器					
81	SD06	摺鉢	陶器		(36.2)	26.1	(14.2)	
82	SD06	摺鉢	陶器					
83	SB01	德利	磁器			3.5		
84	カクラン	蓋	陶器		4.0	3.6	3.0	5.4
85	カクラン	德利	磁器			9.0		
86	カクラン	蓋	陶器			1.5	3.2	7.8 戸長里
87	カクラン	鉢	陶器				18.2	
88	泡状連續A	古銭	銅					
89	泡状連續A	古銭	銅					
90	泡状連續A	古銭	銅					
91	泡状連續A	古銭	銅					

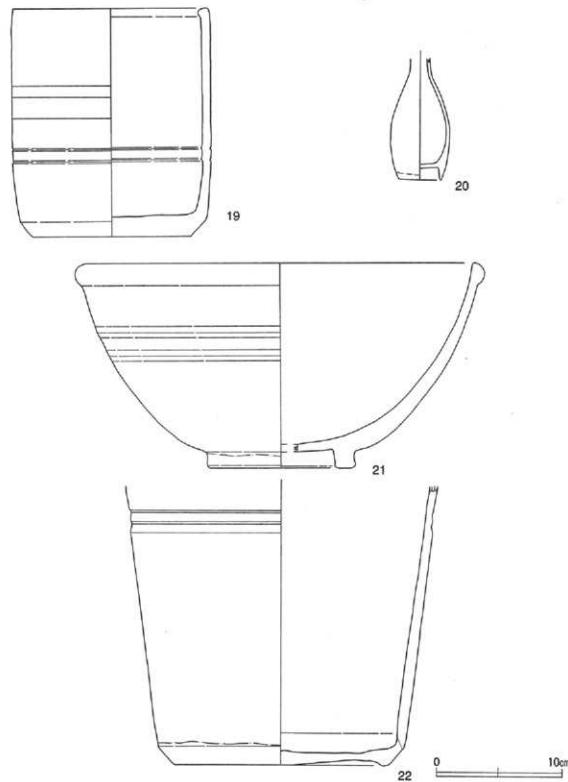
No	出土地	器種	素材	法量(cm)				備考
				口縁径	器高	底径	最大径	
92	池状遺構A	古銭	銅					
93	池状遺構A	古銭	銅					
94	池状遺構A	古銭	銅					
95	カクラン	碗	磁器	(10.2)	4.8	4.2		
96	カクラン	碗	磁器	(11.7)	5.7	5.2		
97	カクラン	碗	磁器	(9.4)	5.5	3.4		
98	カクラン	碗	陶器	10.8	5.5	3.8		相馬焼
99	カクラン	碗	磁器	(8.6)	4.7	3.2		
100	カクラン	皿	陶器	11.0	3.0	5.4		福建省潭州窯
101	カクラン	碗	陶器	(8.5)	6.0	3.4		
102	カクラン	皿	陶器	13.2	3.1	4.6		伊万里焼
103	カクラン	花生	陶器		10.2	6.2	6.8	
104	カクラン	摺鉢	陶器			7.9		
105	カクラン	香炉	陶器	(12.2)				
106	カクラン	皿	陶器	(10.4)	2.6	6.0		
107	カクラン	摺鉢	陶器			9.9		
108	カクラン	碗	磁器	(9.3)	4.8	3.6		
109	カクラン	摺鉢	陶器			11.4		
110	カクラン	皿	陶器	13.0	3.1	5.6		
111	カクラン	碗	磁器	9.2	3.9	3.4		
112	カクラン	皿	磁器	(13.4)	2.6	5.8		初期伊万里
113	カクラン	硯	石					
114	カクラン	摺鉢	陶器					
115	カクラン	摺鉢	陶器					
116	カクラン	摺鉢	陶器					
117	カクラン	砥石	石					



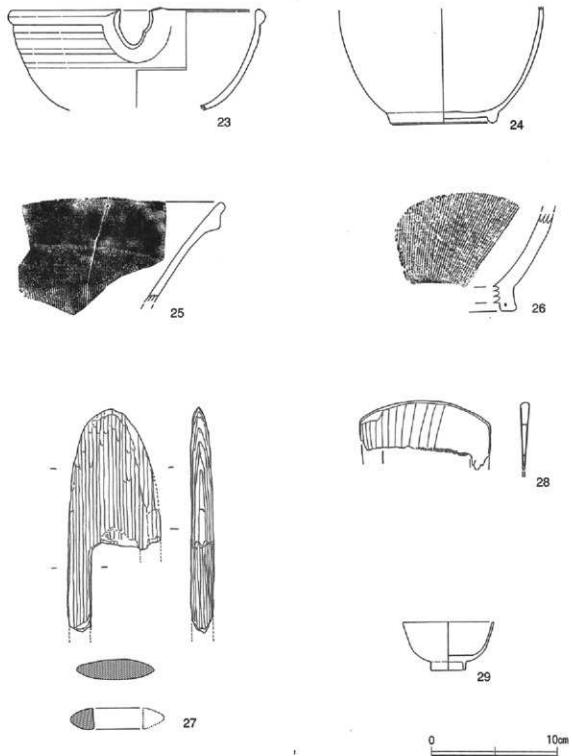
第12図 遺物実測図①



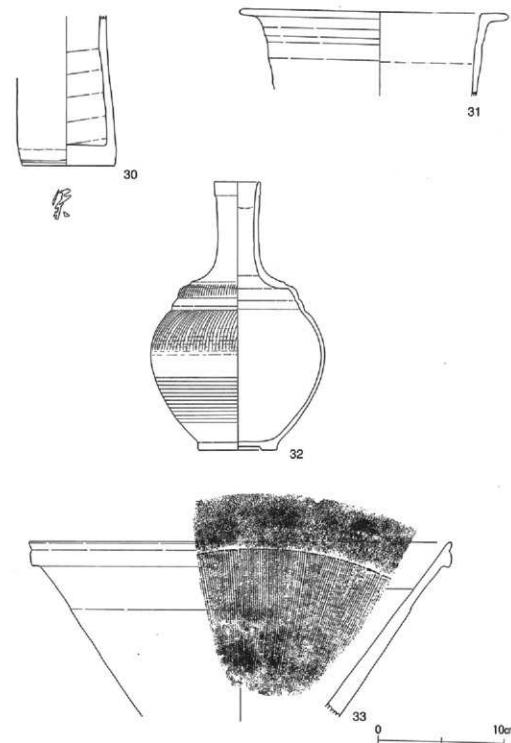
第13図 遺物実測図②



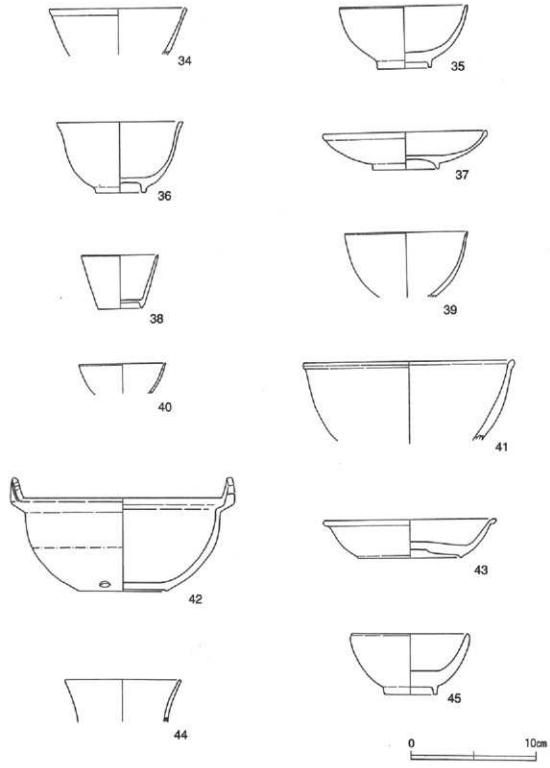
第14図 遺物実測図③



第15図 遺物実測図④

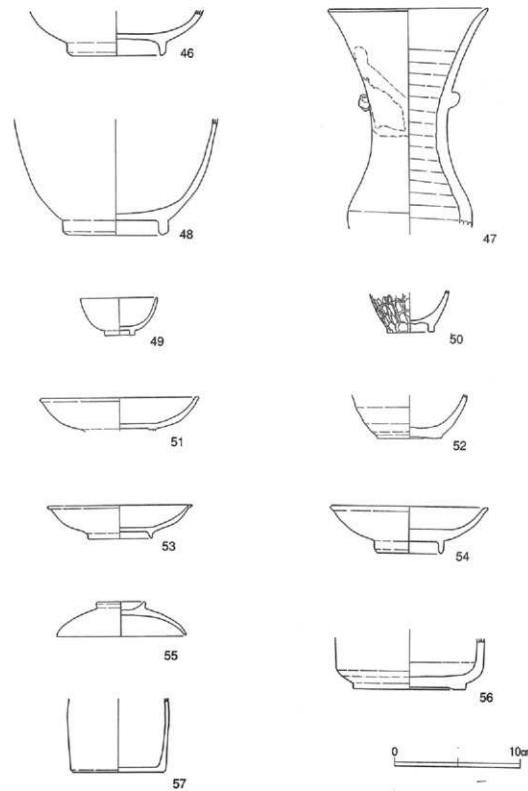


第16図 遺物実測図⑤



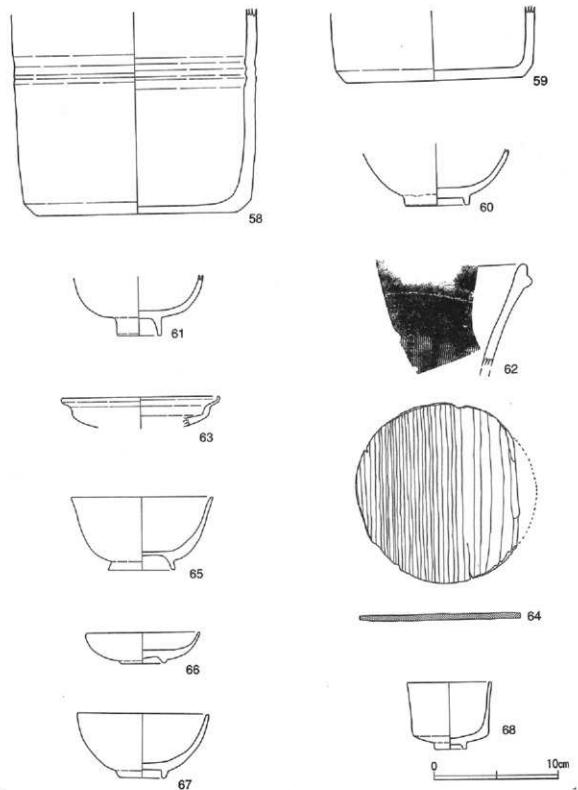
第17図 遺物実測図⑥

36

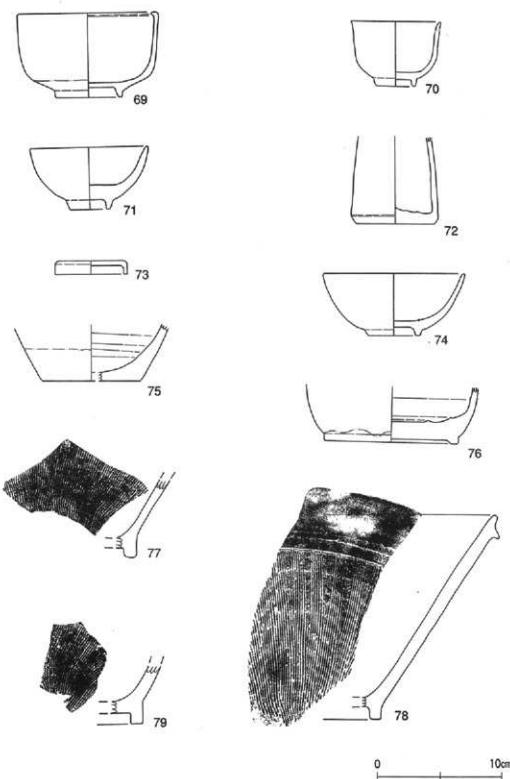


第18図 遺物実測図⑦

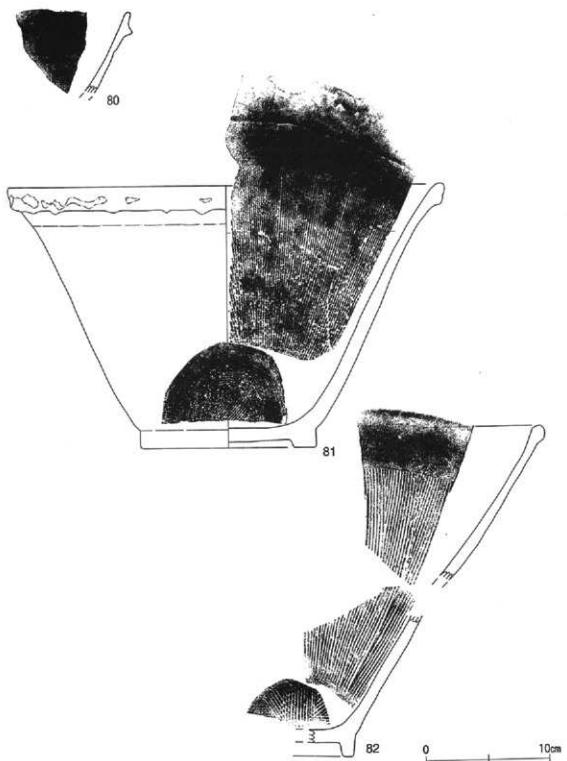
37



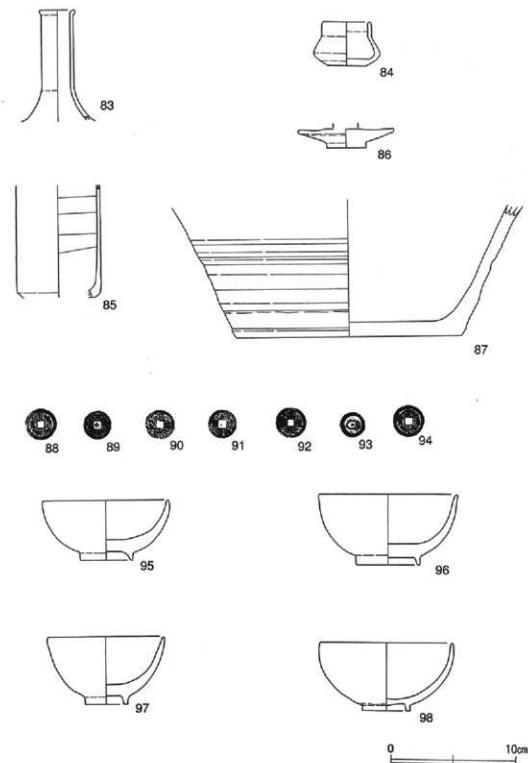
第19図 遺物実測図⑧



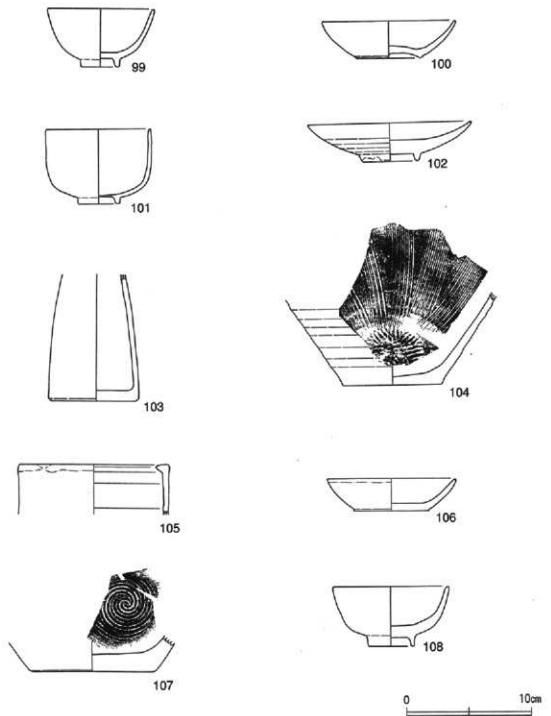
第20図 遺物実測図⑨



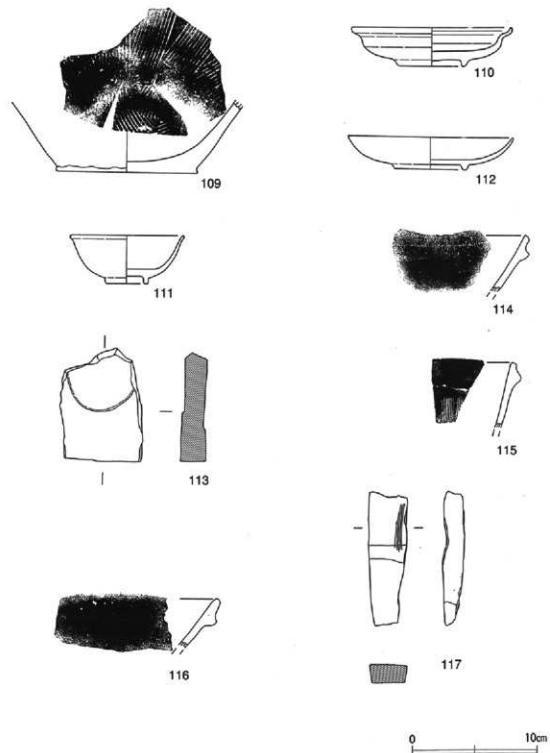
第21図 遺物実測図⑪



第22図 遺物実測図⑪



第23図 遺物実測図⑫



第24図 遺物実測図⑬

IV ま と め

今回の調査において最大の成果は、堀跡や建物跡から田制館の外観をとらえることができたことであろう。東側館堀のほぼ中央部、SD I の南側と現存した溝の北側の部分には幅 1.3 m の溝の切れている部分があり、その場所が館の入り口（大手）と見ることができよう。その入り口を正面として掘立て柱の建物が造られている。その建物の北側には池が造られていた。遺構検出にあたり、調査地は重機にて搅乱されており、また、縦横にトレーナー状に排水溝が掘られ、溝も館をほぼ巡っていることから、手作業にて覆土を除去した。

この館は、田制家に伝わる、この地に移住された 16 世紀末期という時代を示す、確定的な遺構は検出されていない。ただし、掘立柱建物群はその時期を示すものと考えている。遺物としては戸長里窯で焼かれた蓋片や中国産の皿の陶器片より、17 世紀から現代まで続く遺跡である。

参 考 文 献

- 註1：山形県教育委員会 山形県中世城館跡調査報告書 第1集 1995
- 註2：安 部 俊 治 天正初期の伊達氏着到帳の分析
- 註3：まんぎり会 戸長里窯跡第1次調査報告書 1986

報 告 書 抄 錄

ふりがな	たせいいたてあとはつくつちょうさほうこくしょ
書名	田制館跡発掘調査報告書
副書名	
卷次	
シリーズ名	川西町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第16集
編著者名	藤田宥宣・斎藤敏明
編集機関	川西町教育委員会
所在地	〒999-0193 山形県東置賜郡川西町大字上小松 1736-2
電話番号	0238-42-2111 (川西町役場)
発行年月日	西暦 1998 年 3 月 10 日

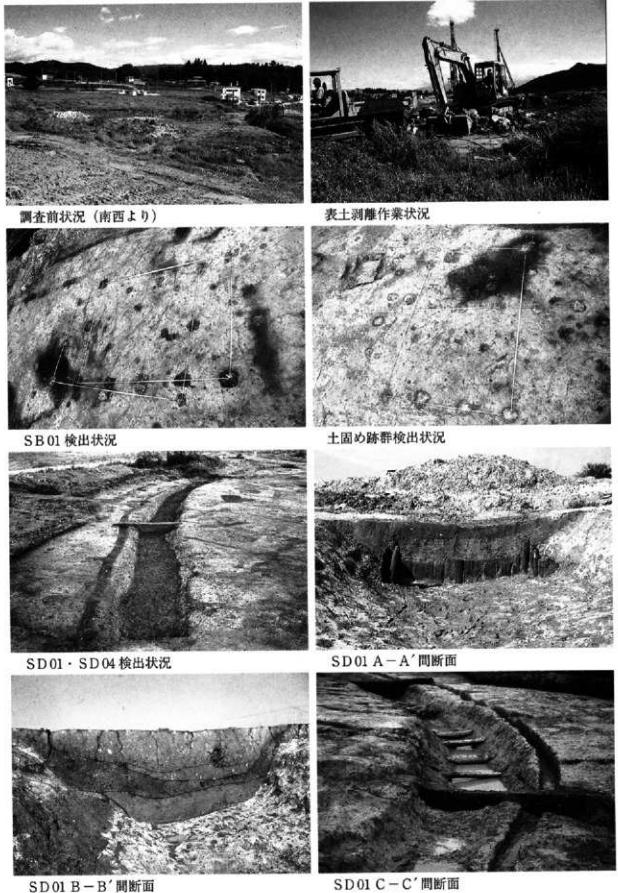
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東緯	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号				
たせいいたて 田制館	山形県東置 賜郡川西町 大字西大塚 字堂ノ前五	6382	平成 7 年山 形県中世城 館遺跡調査 報告書	38 度 2 分 55 秒	140 度 3 分 36 秒	3,813 m ²	公立置賜総 合病院整備 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田制館	城館跡	近世	掘立て柱建物跡 溝跡	陶磁器 木製品 胴突	近世から現代にかけての遺跡である。

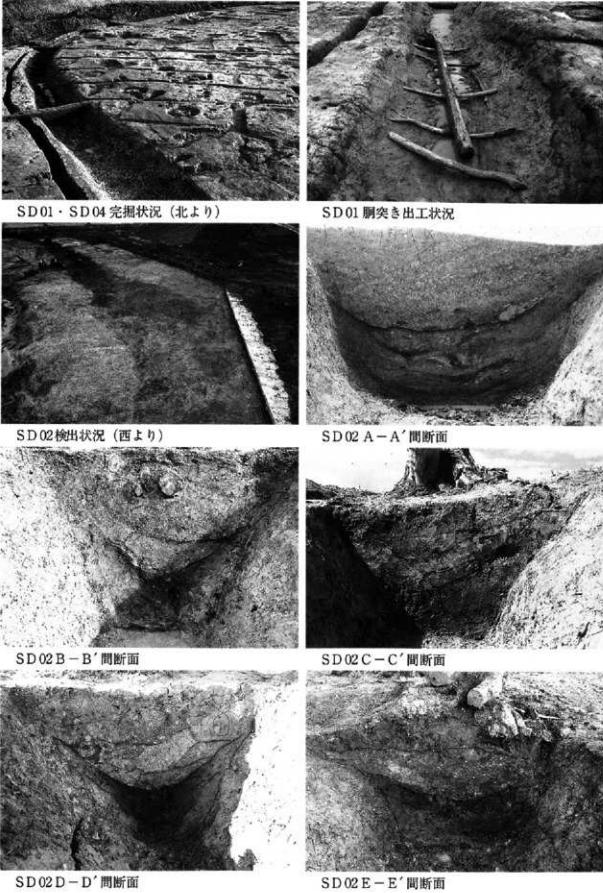
図版1



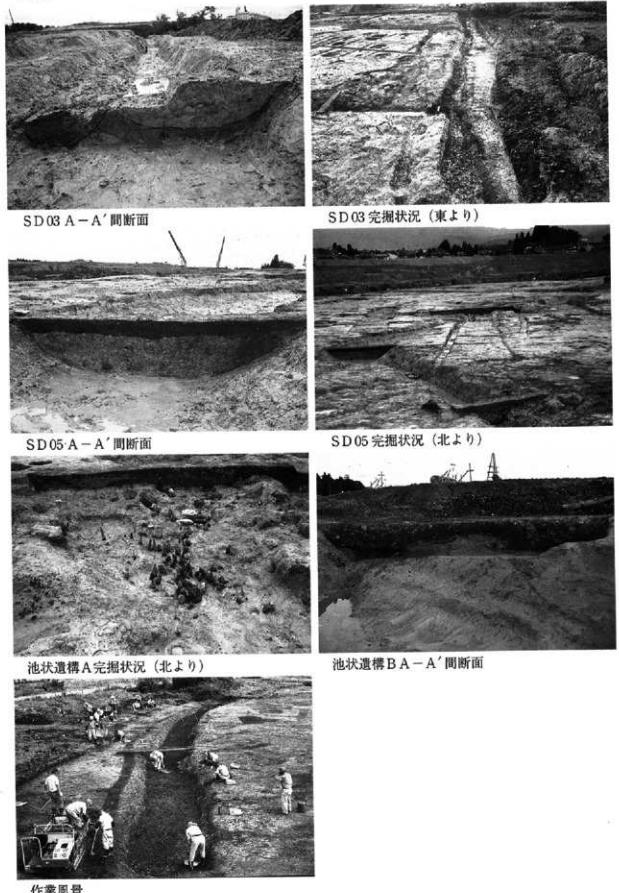
図版 2



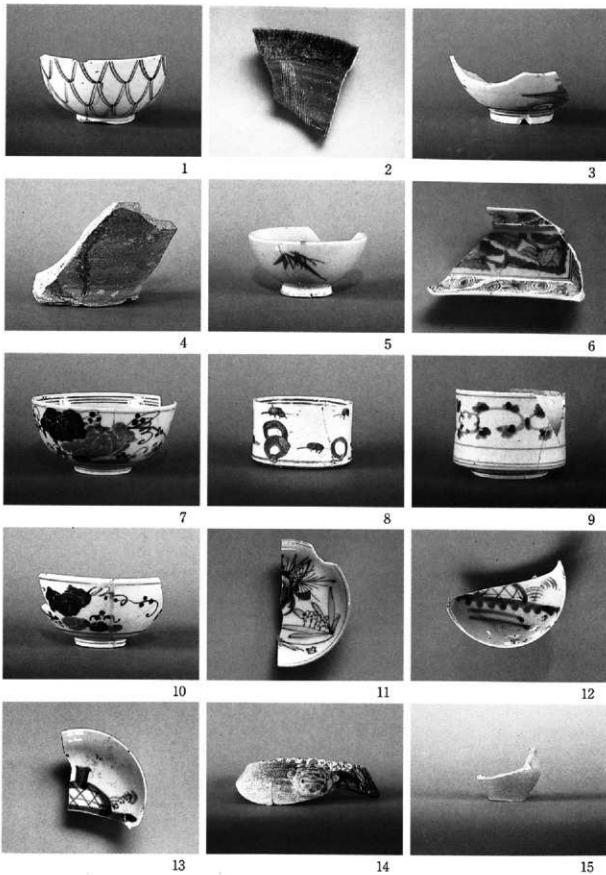
図版 3



図版4

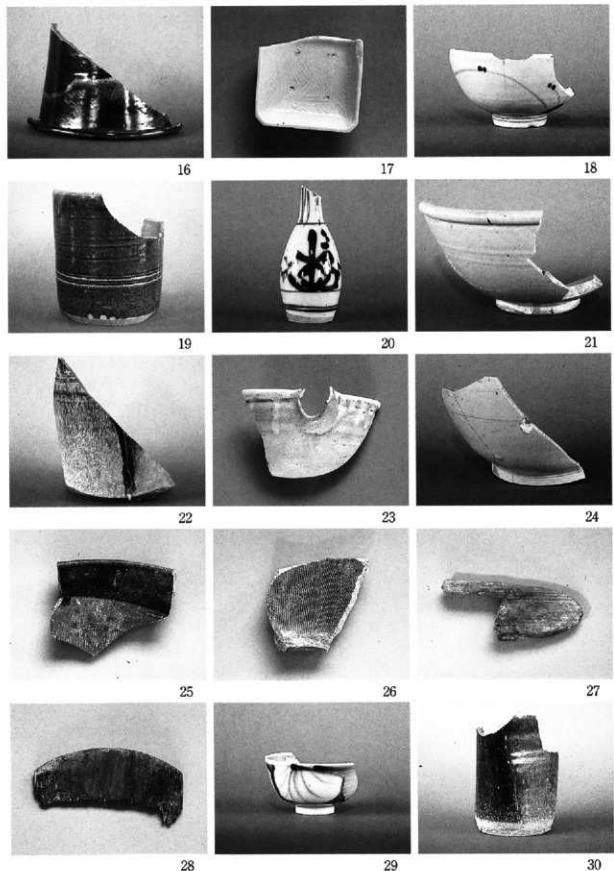


図版5



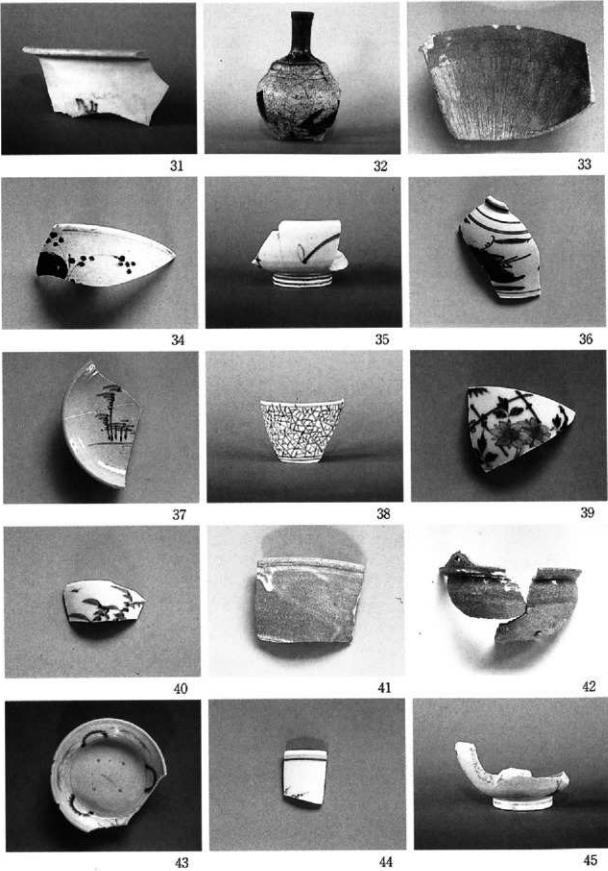
出土遺物①

図版 6



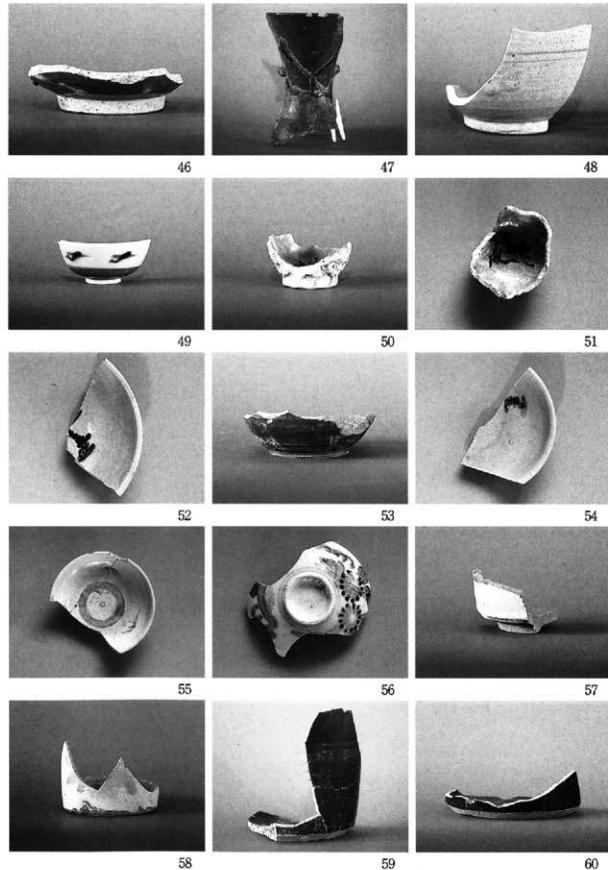
出土遺物②

図版 7



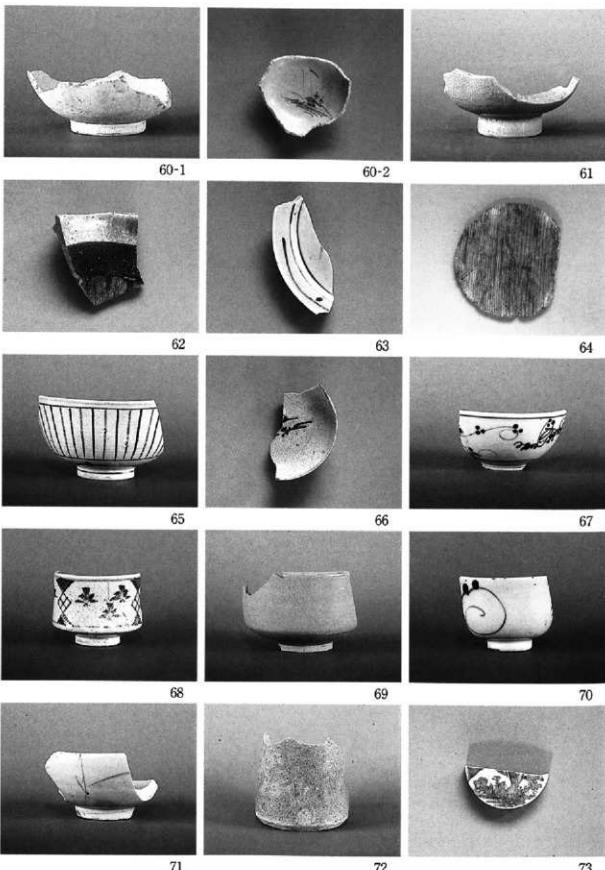
出土遺物③

図版8



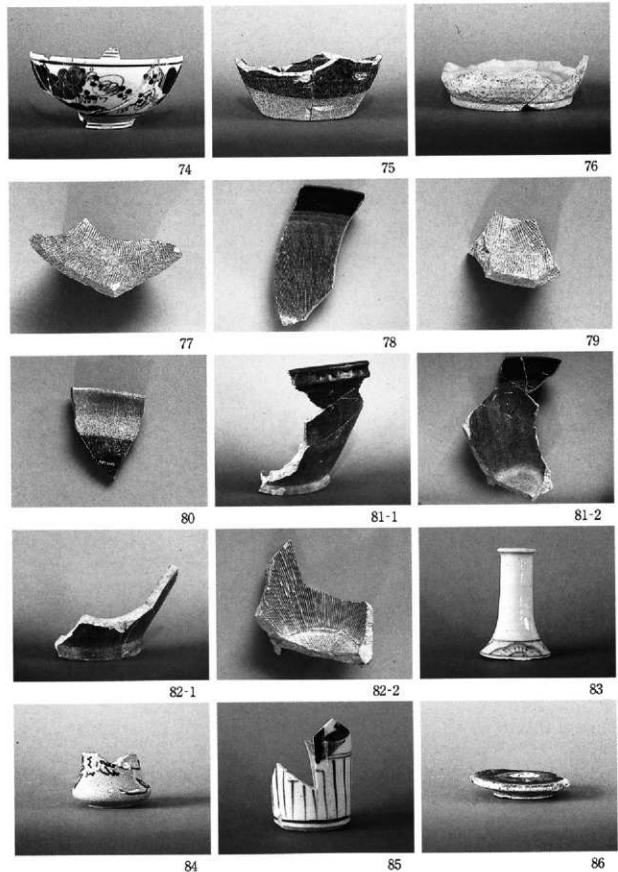
出土遺物④

図版9



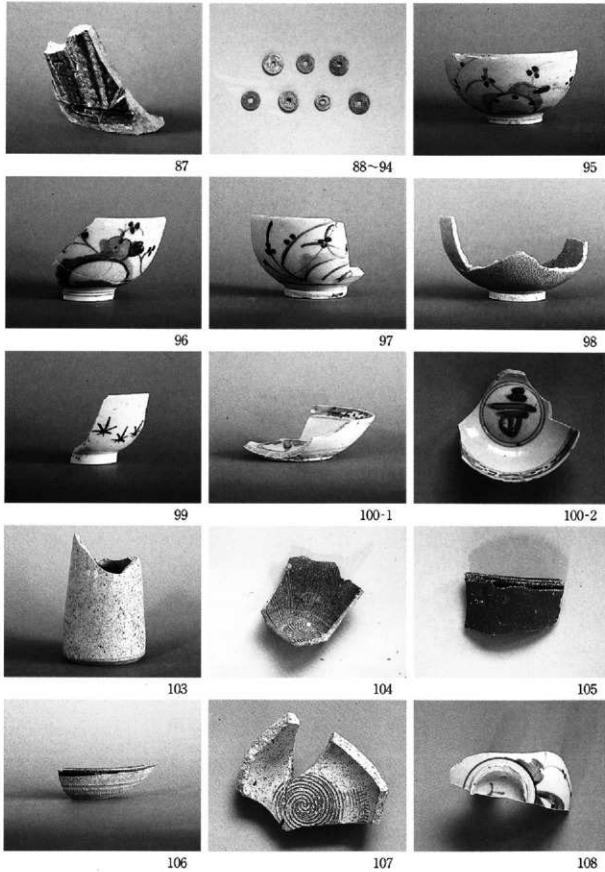
出土遺物⑤

図版 10



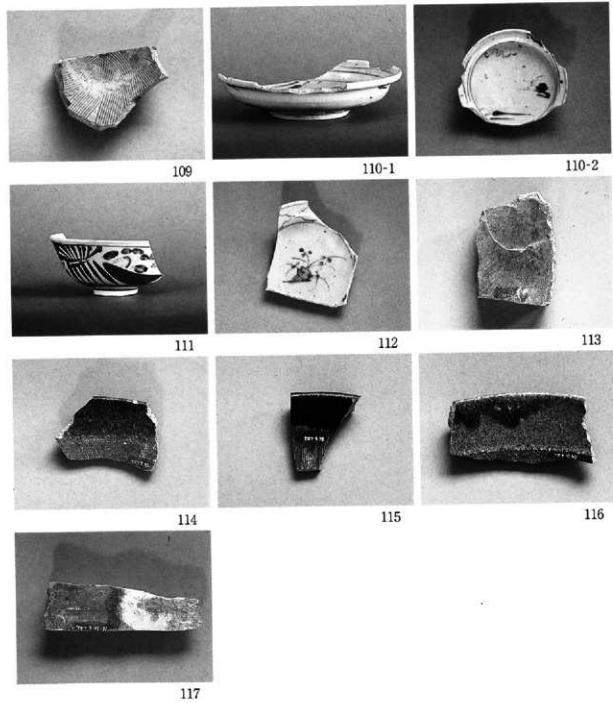
出土遺物⑥

図版 11



出土遺物⑦

図版 12



出土遺物⑧

田制跡発掘調査報告書

1998年3月8日 印刷

1998年3月10日 発行

発行者 川西町教育委員会

社会教育課

印刷所 印刷の芳文社

発行所 山形県川西町

〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松1567

電話 0238-42-2111㈹